

助産師と看護師の臨床能力

和泉美枝, 眞鍋えみ子
京都府立医科大学医学部看護学科

【緒言】近年看護職員の臨床能力育成と向上への取り組みが行われ, 本研究では助産師と看護師の臨床能力を明らかにする.

【方法】H22年3~4月A大学病院看護職員657名を対象とし質問紙調査を行った. そのうち経験年数が近似した助産師・看護師各30名を抽出し分析対象とした. 調査内容は(1)属性, (2)臨床能力(1. 三浦らの教育ニードアセスメントツール臨床看護師用(以下教育ニード)35項目4段階評価, 得点が低い程教育ニードが低い, 2. 上田らの看護実践の卓越性自己評価尺度(以下卓越性)35項目5段階評価, 高得点程卓越性が高い)である. 助産師・看護師の臨床能力をt検定で比較した. 倫理的配慮として依頼文書に研究趣旨と個人情報保護に関する内容を記載, 調査と結果公表の同意を得た.

【結果】

平均経験年数は助産師・看護師とも15.4年, 助産師の教育ニード 74.0 ± 15.1 点, 卓越性 127.6 ± 20.7 点, 看護師はそれぞれ 71.2 ± 20.2 点, 126.8 ± 30.4 点であり, 教育ニードと卓越性に有意差はない.

【考察】

助産師・看護師の教育ニードは三浦らの 83.4 ± 13.8 点(経験15年)より低く, 卓越性は上田らの 122.0 ± 18.1 点(同13.9年)よりもやや高く臨床能力は高く, 助産師も看護師と同等の臨床能力が養われていると考える.

【結論】

産婦人科という限局された部署で勤務することの多い助産師においても看護師と同等の臨床能力が育成されていた. 本報告は文部科学省H21年度助成事業「看護職キャリアシステム構築プラン」の一部である.